

# 令和7年11月市議会 建設水道委員会資料

## 第220号議案 工事の請負契約の一部変更について 長崎駅東通り線橋梁架替工事

目 次	ページ
1 工事の請負契約の一部変更について ······	2
2 工事内容 ······	4

財務部・まちづくり部  
令和7年11月

## 1 工事の請負契約の一部変更について

第220号議案資料			担当	財務部 まちづくり部
工事名		長崎駅東通り線橋梁架替工事		
契約金額	変更前	666,992,700円		
	変更後	690,352,300円		
工期	変更前	議会の議決を得た日から令和8年3月6日まで ※議会の議決を得た日 令和6年3月15日		
	変更後	議会の議決を得た日から令和9年3月15日まで ※議会の議決を得た日 令和6年3月15日		
契約変更の理由		仮設土留工のため設置する仮排水経路の仕様の変更を行う必要が生じたこと等により工事の設計を変更したこと、埋設物の撤去に日数を要したこと等に伴い、契約の金額及び工期を変更するもの。		
相手方		<p>上滝・Factory特定建設工事共同企業体          代表者 長崎市新地町5番17号          株式会社上滝          代表取締役 上滝 満</p> <p>長崎市多良町1551番地93          株式会社Factory          代表取締役社長 山本 清和</p>		

工事概要	<p>1 工事場所 尾上町、八千代町、宝町及び幸町</p> <p>2 工事内容 延長 180メートル          橋台 2基          プレストレストコンクリート橋工 橋長 13.5メートル、幅員 14.8メートル          橋梁付属物工 高欄 27メートル          迂回路整備工 180メートル          旧橋撤去工 橋長 14.6メートル、幅員 10.6メートル          仮設 締切鋼矢板 159メートル</p>																																							
財源内訳	<table border="1" data-bbox="563 679 2039 1071"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">工事費</th> <th colspan="5">財源内訳</th> </tr> <tr> <th>国庫支出金<sup>※1</sup></th> <th>県支出金</th> <th>地方債<sup>※2・3</sup></th> <th>その他</th> <th>一般財源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>契約額（変更後）</td> <td>千円 690,352</td> <td>千円 315,011</td> <td>千円 -</td> <td>千円 337,700</td> <td>千円 -</td> <td>千円 37,641</td> </tr> <tr> <td>契約額（変更前）</td> <td>千円 666,992</td> <td>千円 306,665</td> <td>千円 -</td> <td>千円 324,100</td> <td>千円 -</td> <td>千円 36,227</td> </tr> <tr> <td>差引</td> <td>千円 23,360</td> <td>千円 8,346</td> <td>千円 -</td> <td>千円 13,600</td> <td>千円 -</td> <td>千円 1,414</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 都市構造再編集中支援事業費補助金 (5.0/10)      ※2 公共事業等債 充当率 90% (交付税措置率 22.2%)      ※3 一般単独・地方道路等整備事業債 充当率 90% (交付税措置率 -%)</p>								工事費	財源内訳					国庫支出金 <sup>※1</sup>	県支出金	地方債 <sup>※2・3</sup>	その他	一般財源	契約額（変更後）	千円 690,352	千円 315,011	千円 -	千円 337,700	千円 -	千円 37,641	契約額（変更前）	千円 666,992	千円 306,665	千円 -	千円 324,100	千円 -	千円 36,227	差引	千円 23,360	千円 8,346	千円 -	千円 13,600	千円 -	千円 1,414
	工事費	財源内訳																																						
		国庫支出金 <sup>※1</sup>	県支出金	地方債 <sup>※2・3</sup>	その他	一般財源																																		
契約額（変更後）	千円 690,352	千円 315,011	千円 -	千円 337,700	千円 -	千円 37,641																																		
契約額（変更前）	千円 666,992	千円 306,665	千円 -	千円 324,100	千円 -	千円 36,227																																		
差引	千円 23,360	千円 8,346	千円 -	千円 13,600	千円 -	千円 1,414																																		

## 2 工事内容

### (1) 位置図



## (2) 橋梁位置図・平面図

### 寿橋について

- 馬込川に架かる橋梁
- 橋長 14.65m
- 幅員 7.45m
- 架設年 昭和26年  
(74年経過)

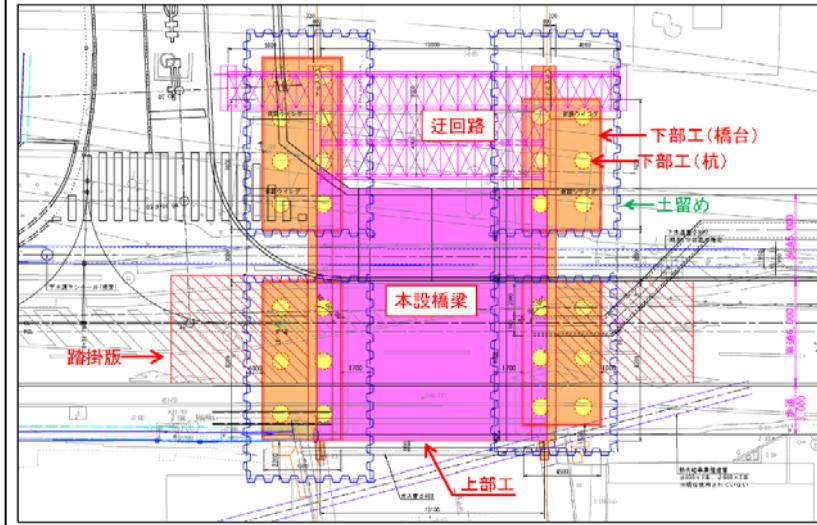
東通り線の幅員（計画）  
14.0m



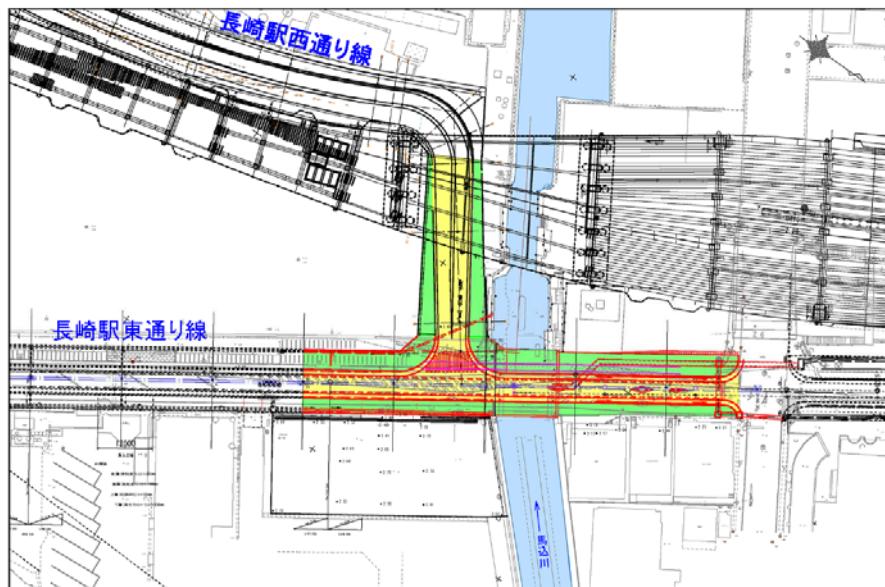
架替えが必要



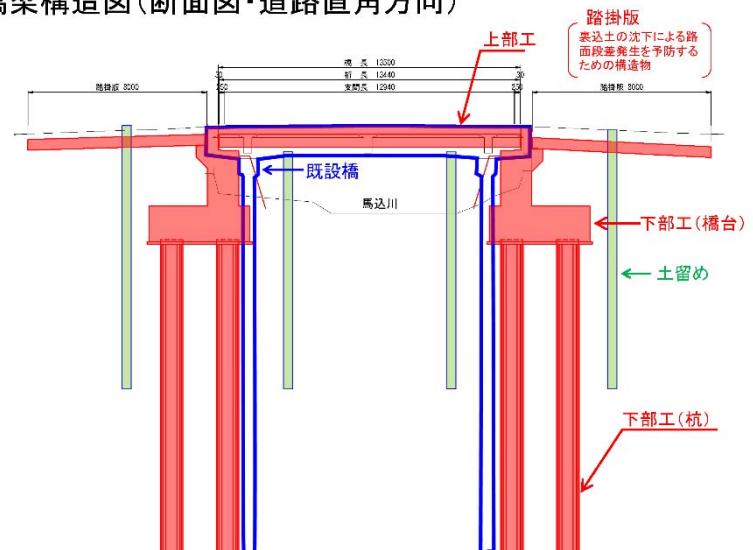
### 橋梁構造図(平面図)



### 全体平面図

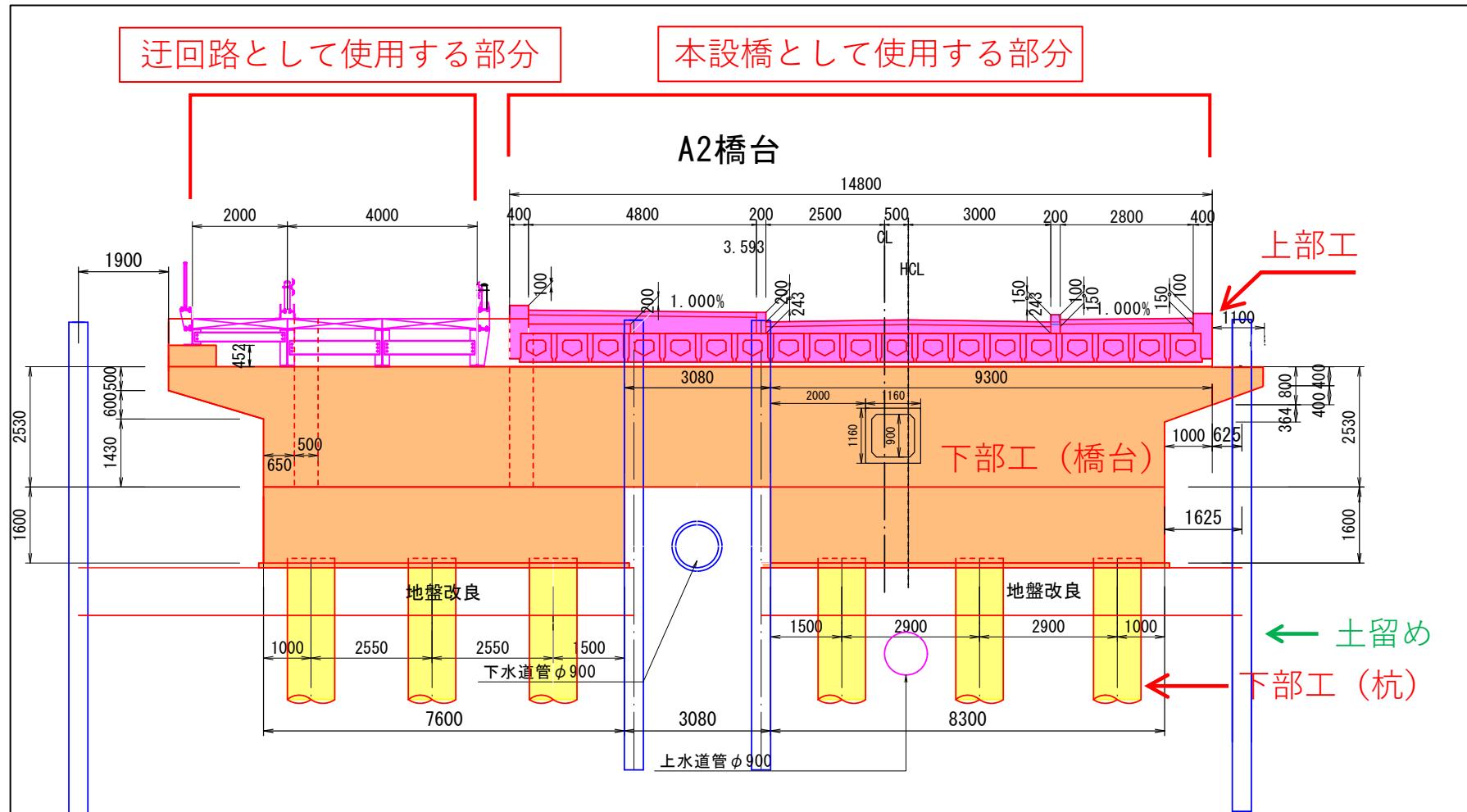


### 橋梁構造図(断面図・道路直角方向)



### (3) 橋梁構造図

(下部工断面図・長崎スタジアムシティ方向)



## (4) 工事の流れ

### 【下流（迂回路）側】

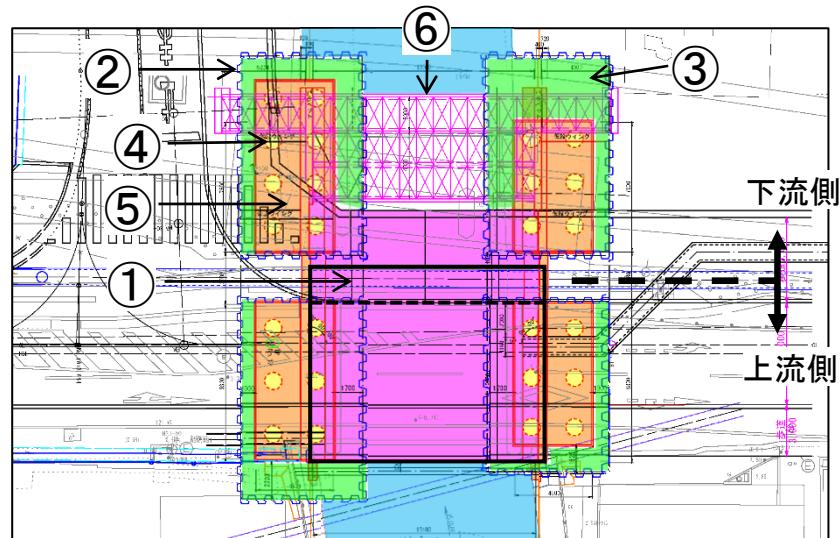
- ①既設橋梁（歩道部）の撤去
- ②土留め鋼矢板の打設
- ③地盤改良工
- ④場所打ち杭工
- ⑤下部工（橋台）
- ⑥上部工（桁架設）



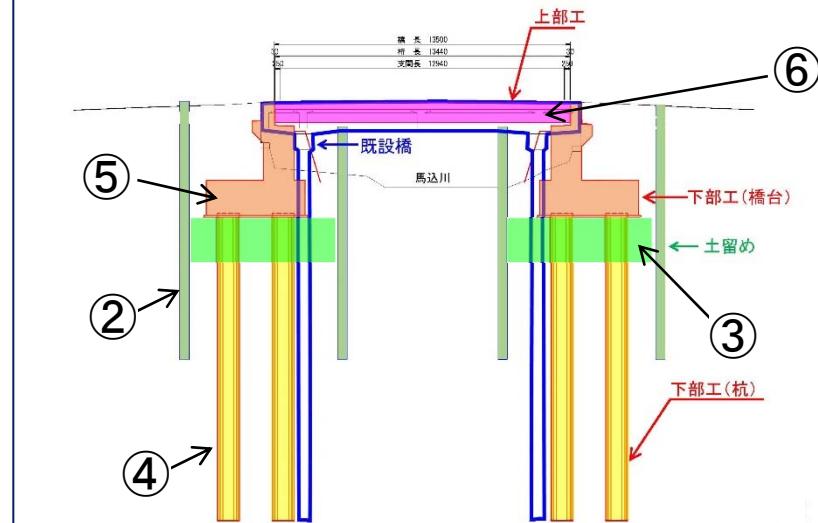
### 【上流（現道）側】

既設橋梁（車道部）の撤去  
以下、下流（迂回路）側と同じ工程

橋梁構造図（平面図）



橋梁構造図（断面図・道路直角方向）



## (5) 施工状況



地盤改良の状況



地中に大量に硬化材（セメントと水を混ぜ合わせたもの）を噴射する必要があるため、現場にプラント（サイロ（セメント貯蔵施設）と攪拌装置）を設置

プラントで混合した硬化材を矢板の上の作業用足場からボーリングロッドを通して高圧噴射し改良体を造成

## 地盤改良の状況

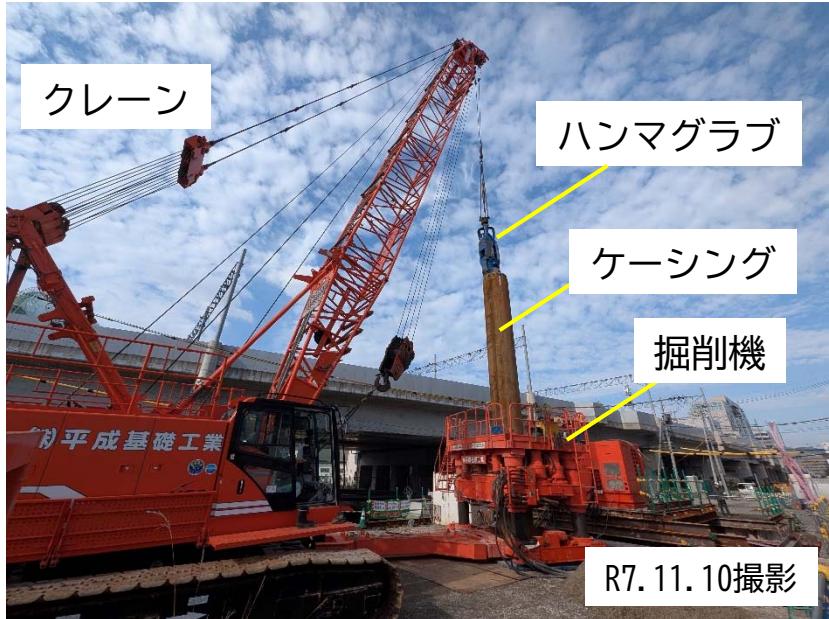
R7.11.7撮影



ケーシングや掘削機を  
吊るためのクレーン

ケーシングを地盤に回転圧入  
するための掘削機

## 場所打ち杭の施工状況



ケーシングを地盤に回転圧入しながら  
ケーシング内をハンマグラブで掘削

掘削後に鉄筋かごをケーシング内  
に挿入し生コンを打設

## 場所打ち杭の施工状況

## (6) 変更内容

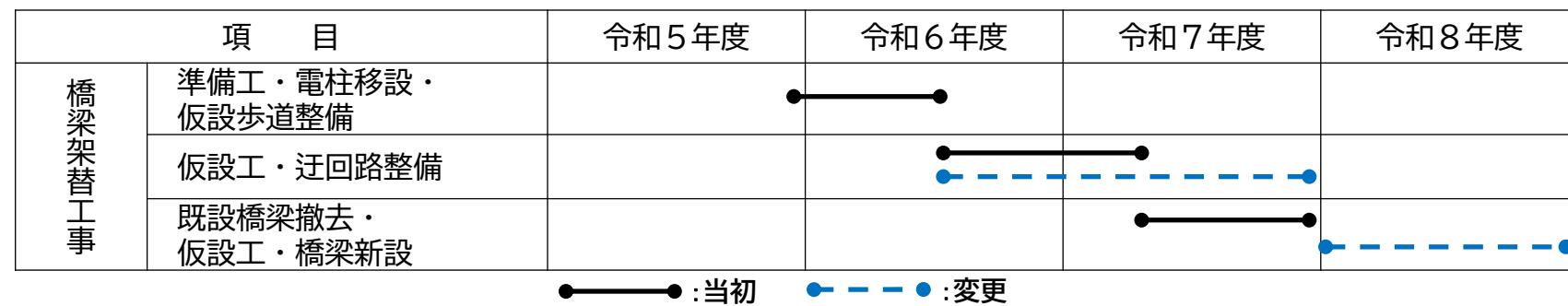
以下の理由により契約の金額及び工期を変更するもの。

- ア 道路・河川管理者との協議の結果、河川から側溝への逆流による道路冠水を防止するため、フラップゲート機能を有する仮設排水管の施工を追加するもの。
- イ 地中残存物が多数存在していたことなどにより、土留工・支保工の規格・配置等が変更になったもの。
- ウ 地中残存物（レンガ、コンクリート等）の存在が多数確認され、その撤去作業に日数を要したこと等から、工期を1年（+12か月）延長するもの。  
(令和7年9月議会において繰越承認済)

## 変更内容ウの詳細

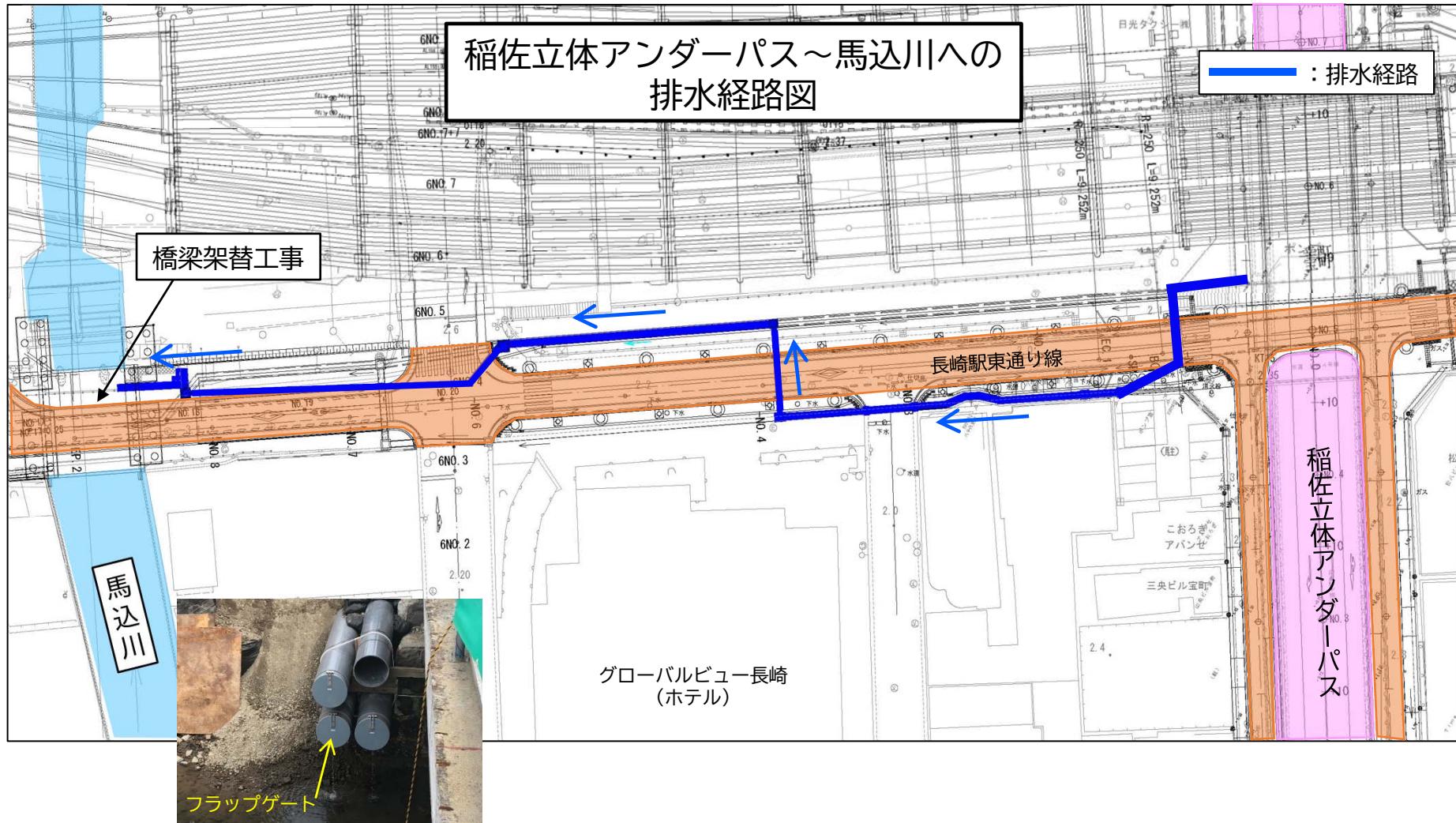
- (ア) 仮設工（土留工、地盤改良工）に先立ち、下流（迂回路）側において実施したボーリング調査の結果、地中残存物（レンガ、コンクリート）が確認されたことから、状況把握のための試掘や地盤改良工法の変更検討、浅層部に存する埋設物の除去に日数を要したもの（+ 2か月）
- (イ) 下流側（迂回路）側の土留工施工時に、ボーリング調査で把握した地中残存物（レンガ、コンクリート）のほか、鋳鉄管や木杭、ライナープレートの存在が多数確認され、その撤去作業に日数を要したもの（+ 4か月）
- (ウ) 地盤改良工法の変更により、施工箇所ごとのプラント設置など施工日数が増となるもの（+ 2か月）
- (エ) 次工程で施工する上流（現道）側の土留工においても、地中残存物の撤去作業に下流（迂回路）側と同程度の期間を要する見込みであるもの（+ 4か月）

## 工事工程

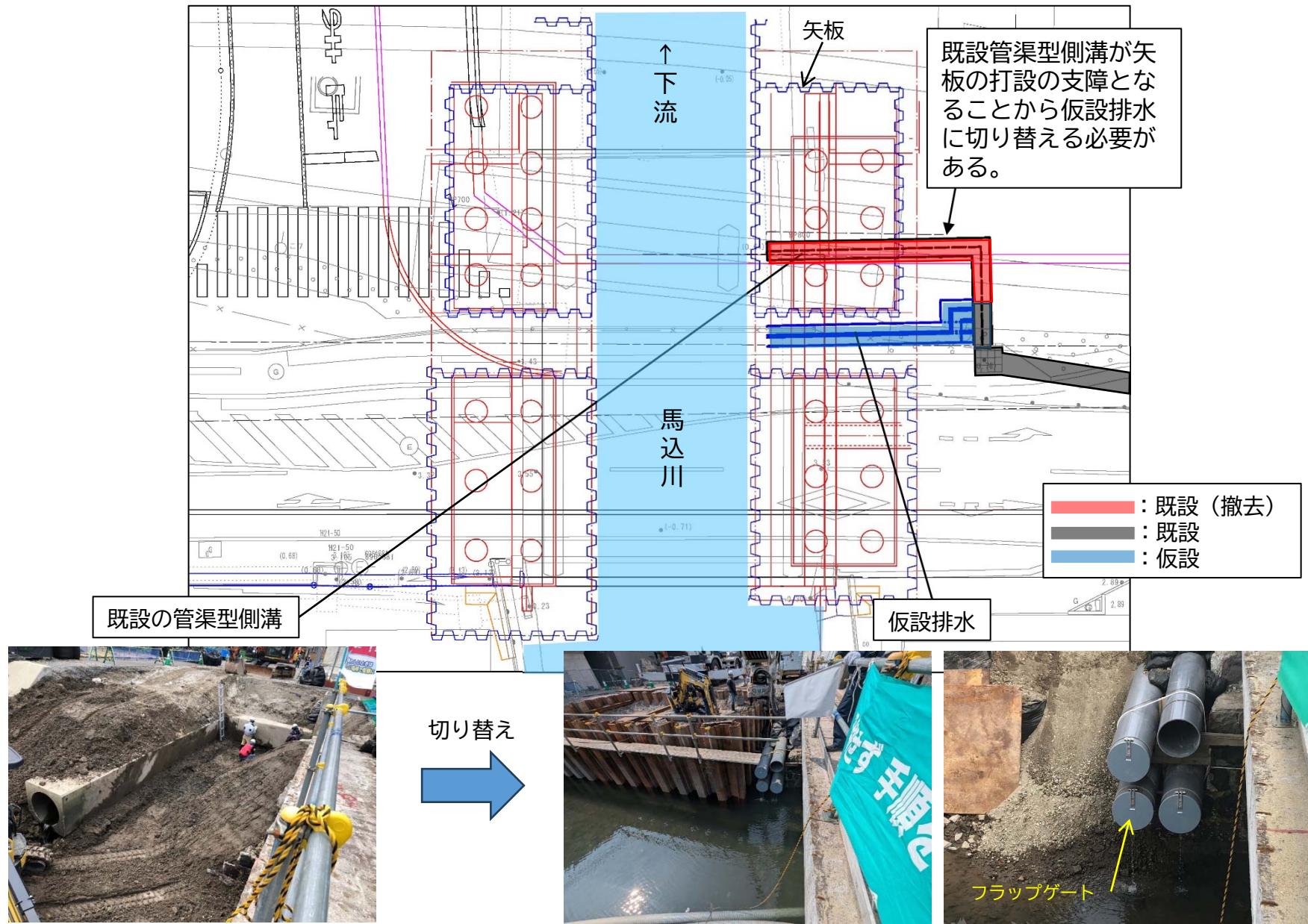


## (7) 変更理由

変更①：道路・河川管理者と協議した結果、潮位が高い時に馬込川から側溝への逆流による道路冠水を防止するため、フラップゲート機能を有する仮設排水管の施工を追加するもの。

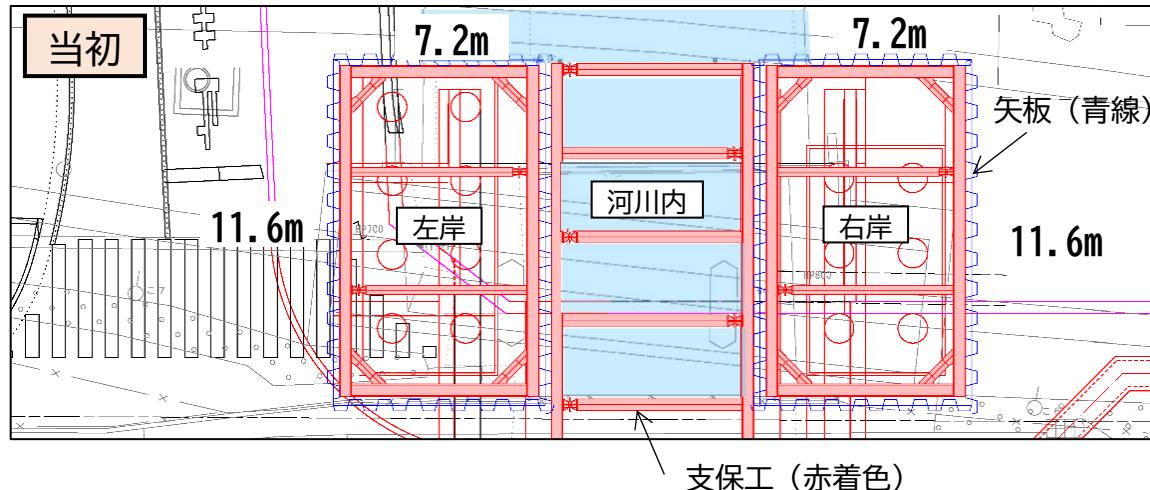


## 仮排水管への切り替え



変更②：地中残存物が多数存在していたことなどにより、土留工・支保工の規格・配置等が変更になったもの。

## 土留め・支保工の設置状況

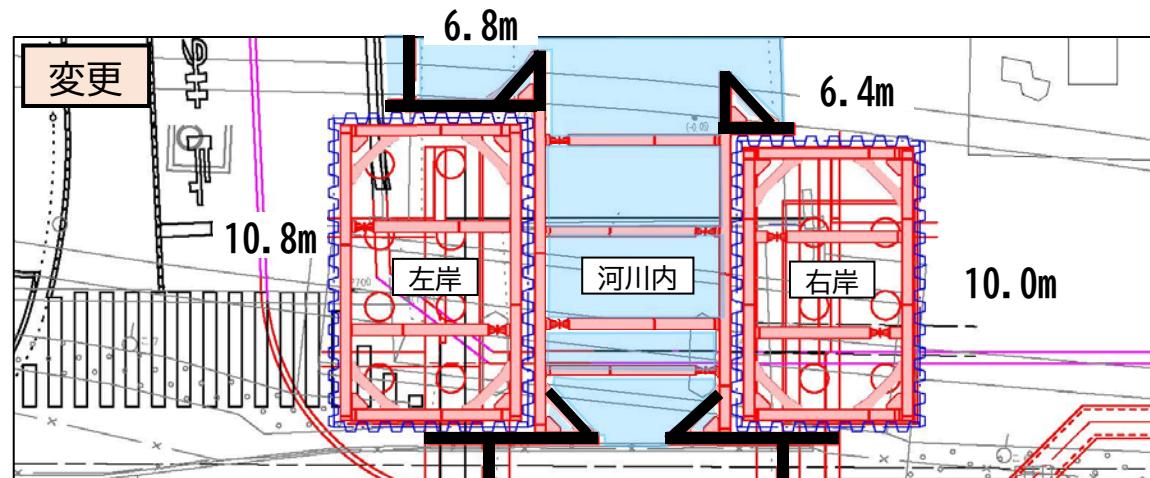


現場条件や土質を考慮した標準的な設計（地中残存物は考慮されていない）

土留工（矢板）  
規格V型(厚さ24.3mm)  
長さ12.0m

支保工  
重量 29 t

※支保工  
矢板内の掘削時に土圧や水圧で矢板が崩壊しないよう補強する部材



地中残存物が多数存在していたことから、土留工（矢板）の位置や長さ、規格を変更  
これに伴い、矢板の変位量が変化することから、補強のため支保工を追加

土留工（矢板）  
規格IV型(厚さ15.5mm)  
長さ8.5m

支保工  
重量 45 t

■ 支保工が追加となった部分

## 土留め・支保工の設置状況

